



2024年9月30日

各 位

会 社 名 フェスタリアホールディングス株式会社
代 表 名 代表取締役社長 貞松 隆 弥
(コード番号：2736 東証スタンダード市場)
問い合わせ先 常務取締役 姉川 清 司
電 話 番 号 03-6633-9869

「ポジティブ・インパクト・ファイナンス」契約締結に関するお知らせ

当社は、株式会社商工組合中央金庫（本店：東京都中央区、代表取締役社長：関根 正裕、以下「商工中金」）と「ポジティブ・インパクト・ファイナンス」（以下、「PIF」）に関する融資契約を締結しましたので、お知らせいたします。

PIF とは、国連環境計画・金融イニシアティブ（UNEPFI）が策定したポジティブ・インパクト金融原則に基づき、企業活動が環境（Environment）・社会（Social）・経済（Governance）に及ぼすインパクト（ポジティブな影響とネガティブな影響）を包括的に分析・評価し、該当活動の継続的な支援を目的とした融資です。金融機関が、融資先となる企業の事業活動を分析し、達成すべき業績評価指標（KPI）の設定と施策を支援するとともに、達成状況を継続的にモニタリングします。

商工中金が当社に対して PIF を実施するに当たり、株式会社商工中金経済研究所が、当社の 100% 連結子会社で事業会社の中核である株式会社サダマツ（以下、「サダマツ」）における SDGs の目標達成に対してインパクトを与える活動の評価を行いました。

なお、本件は株式会社日本格付研究所（JCR）より、国連環境計画金融イニシアティブの策定したポジティブ・インパクト・ファイナンス原則への適合性および環境省の ESG 金融ハイレベル・パネル設置要綱第 2 項（4）に基づき設置されたポジティブインパクトファイナンスタスクフォースがまとめた「インパクトファイナンスの基本的考え方」との整合性について、第三者意見を取得していません。

※第三者意見については、以下の URL をご参照下さい。

<https://www.shokochukin.co.jp/sf/> （外部リンク）

当社は、社会課題に向き合い、ステークホルダーと共に社会構造を変革していくことでより良い社会を目指すことが、当社グループの持続的な成長と企業価値の向上に資するものと考え、サステナブルな社会の実現に向けた活動に引き続き取り組んでまいります。

1. 本契約の概要

- ①借入人：フェスタリアホールディングス株式会社
- ②借入金額：3億円
- ③資金使途：運転資金
- ④借入期間：1年（コミットライン 更新オプション4回）
- ⑤モニタリング実施時期：毎年12月

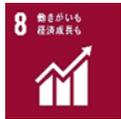
2. 本 PIF のインパクト評価と設定 KPI

サダマツは商工中金と共同し、本 PIF における重要な以下の KPI を設定しました。

【ポジティブ・インパクト】

特定したインパクト	教育																				
取組内容(インパクト内容)	・人材育成																				
KPI	● 2028年8月期までに、ジュエリーコーディネーター資格2級を10名、3級を140名とする。																				
KPI 達成に向けた取り組み	<p>➢ 目標とする職務や役職に進むための必要なスキルや資格取得等を明示し、社員各自が自分の「キャリアプラン」の実現を目指すことにより、従業員一人ひとりが成長に向けてチャレンジする体制を整え、やりがいを生み出す環境作りを進めている。具体的には、専門職としての営業職・企画職、一般職と総合職4つの職種区分について社員の目標とする職務や役職に進むための道筋を示す「キャリアパス制度」の制定に取り組んだ。</p> <p>➢ 取得率目標を以下のように設定し、専門性の高い人材育成に取り組んでいく。</p> <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th>単位:人</th> <th>販売員数</th> <th>取得者</th> <th>取得率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">2024年6月時点</td> <td>340</td> <td>2</td> <td>0.59%</td> </tr> <tr> <td>340</td> <td>96</td> <td>28.24%</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">2028年8月期 (目標)</td> <td>340</td> <td>10</td> <td>2.94%</td> </tr> <tr> <td>340</td> <td>140</td> <td>41.18%</td> </tr> </tbody> </table>			単位:人	販売員数	取得者	取得率	2024年6月時点	340	2	0.59%	340	96	28.24%	2028年8月期 (目標)	340	10	2.94%	340	140	41.18%
単位:人	販売員数	取得者	取得率																		
2024年6月時点	340	2	0.59%																		
	340	96	28.24%																		
2028年8月期 (目標)	340	10	2.94%																		
	340	140	41.18%																		
貢献する SDGs ターゲット	4.4	2030年までに、技術的・職業的スキルなど、雇用、働きがいのある人間らしい仕事及び起業に必要な技能を備えた若者と成人の割合を大幅に増加させる。																			

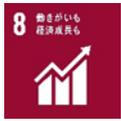
特定したインパクト	資源強度		
取組内容(インパクト内容)	・循環型ビジネス		
KPI	● 修理加工分野の売上高を2028年8月期には、2023年8月期に比して300%へ伸長させる(2.3億円→7億円へ)。		
KPI 達成に向けた取り組み	➢ 経営理念 bijoudefamille に根差す修理加工、リフォーム対応など、ジュエリーに「想い」を託し世代を超えて受け継ぐ循環型ビジネス		

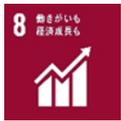
	<p>の強化に取り組み、修理加工、リフォーム分野の 2023 年度の売上高は、5 年前に比べて 160%になった。</p> <p>➤ 2024 年 8 月期(第 61 期)第 2 四半期決算説明会資料「Ⅳ. 成長戦略」において「次世代」への事業として、サステナビリティを踏まえた循環型ビジネス(修理加工分野)の検討を掲げており、循環型ビジネスを推進していく。</p>		
貢献する SDGs ターゲット	8.4	<p>2030 年までに、世界の消費と生産における資源効率を漸進的に改善させ、先進国の主導の下、持続可能な消費を生産に関する 10 年計画枠組みに従い、経済成長と環境悪化の分断を図る。</p>	
	12.2	<p>2030 年までに天然資源の持続可能な管理及び効率的な利用を達成する。</p>	

【ネガティブ・インパクト】

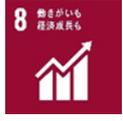
特定したインパクト	【ネガティブ・インパクト】紛争		
取組内容(インパクト内容)	・キンバリー・プロセス要件を満たしたダイヤモンドの取り扱い		
KPI	● 融資期間中、ダイヤモンドの取り扱いをキンバリー・プロセスの要件を満たしたもののみとする。		
KPI 達成に向けた取り組み	<p>➤ 販売するダイヤモンドについて、キンバリー・プロセスの要件を満たしたダイヤモンドのみを取り扱っている。引き続き、キンバリー・プロセス要件を満たしたもののみとし、不必要な採掘の抑止による天然資源の枯渇防止や、紛争ダイヤモンドの不使用により、「紛争」へのネガティブの抑制への取り組みに繋げる。</p>		
貢献する SDGs ターゲット	16.2	<p>子供に対する虐待、搾取、取引及びあらゆる形態の暴力及び拷問を撲滅する。</p>	
	16.4	<p>2030 年までに、違法な資金及び武器の取引を大幅に減少させ、奪われた財産の回復及び返還を強化し、あらゆる形態の組織犯罪を根絶する。</p>	

特定したインパクト	健康および安全性
取組内容(インパクト内容)	・従業員エンゲージメント向上
KPI	<p>● 年に 1 回社内でエンゲージメントルール遵守のアンケートにおいてエンゲージメントルールの 4 つのマナー①「ルール」festaria Group エンゲージメントルール企業理念・行動基準を理解し、守っている ②「感謝」常に感謝して行動している ③「モットー」明・元・楽・強・協を意識している ④「マナー」約束を守り、嘘をつかず、悪口を言わず、挨拶(アイコンタクトスマイル・目を見て笑</p>

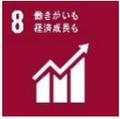
	顔で、業務を行っていても目を合わせての挨拶)や返事をしているについて「非常に出来ている+出来ている」を 2023 年 8 月期 76.4%から 2028 年 8 月期 85.0%以上とする。	
KPI 達成に向けた取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 行動基準「festaria Group エンゲージメントルール」の遵守を前提とした働き方や価値観の多様性を尊重し合う職場環境整備のため、エンゲージメントルール遵守を全社員が実現することで会社のベクトルと同じ方向に合わせることで社員一人一人が働きやすい職場環境を実現させることを目的として、年に 1 回社内でエンゲージメントルール遵守のアンケートを実施している。 ➢ アンケート実施後のマナー違反を改善することを目的とした指導の実施や、今期の注力テーマを決め、推進していくことで「非常に出来ている+出来ている」の割合を向上させる。 	
貢献する SDGs ターゲット	8.8	<p>移住労働者、特に女性の移住労働者や不安定な雇用状態にある労働者など、全ての労働者の権利を保護し、安全・安心な労働環境を促進する。</p> 

特定したインパクト	健康および安全性	
取組内容(インパクト内容)	・ワークライフバランス	
KPI	● 平均有給休暇取得率を 2028 年 8 月期までに 60%とする。	
KPI 達成に向けた取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 年次有給休暇年間取得率については、有給休暇を取得しやすい雰囲気づくりのため「誕生日休暇」や「エンゲージメント休暇」「リフレッシュ休暇」制度を導入し、2023 年 4 月～2024 年 3 月ベースで 49.7%(対前年同期間 51.7%、厚生労働省「令和 5 年就労条件総合調査の概況」によれば、労働者 1 人年次有給休暇取得率は、62.1%)となっている。 ➢ 今後は、上司の有給休暇取得に関する意識改革の取り組みや、連休取得の社内目標を掲げながら、有給取得を促すと同時に、有給取得が推進できるような人員体制等を再検討することで有給休暇取得を推進する。 	
貢献する SDGs ターゲット	8.8	<p>移住労働者、特に女性の移住労働者や不安定な雇用状態にある労働者など、全ての労働者の権利を保護し、安全・安心な労働環境を促進する。</p> 

特定したインパクト	ジェンダー平等	
取組内容(インパクト内容)	・女性の活躍推進	
KPI	<ul style="list-style-type: none"> ● 2028 年 8 月期までに「くるみん認定」を取得する。 ● 2028 年 8 月期までに女性管理職比率を 56%、女性役員比率を 30%とする。 	

<p>KPI 達成に向けた取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 人材の多様化と人材の育成が中長期的な企業価値向上に繋がると考え、女性、外国人、中途採用を活発に行っている。女性の活躍促進については、公平な機会提供はもとより、ライフステージの変化に柔軟に対応しながら継続的にキャリア形成への支援を行うなど、安心して挑戦・活躍できるような福利厚生制度を導入している。具体的には、正社員が出産休暇・育児休業から復帰する際に、本人の希望で一時期をパートタイマーとして勤務した後、正社員として復帰する場合、元の職級号俸に復帰できる「カムバック制度」を設けたり、子女が小学校 4 年生に上がるまでの期間、時短勤務を認めたりしている。また、家族が要介護状態のケースでは、介護休暇を最大 93 日間、3 回に分けて取得することを認めている。 ➤ 一層の女性活躍の促進のため「子育てサポート企業」として厚生労働大臣の認定「くるみん認定」を、社内啓蒙活動を進め 2028 年 8 月期までに認定を目指す。 ➤ 女性に限った制度ではないが、専門職としての営業職・企画職、一般職と総合職 4 つの職種区分の「キャリアパス制度」を明示するとともに、女性の登用を積極的に推進しており、管理職に占める女性の割合は 2024 年 5 月末時点で 54.5%、女性役員比率は 22.2%になっている。 		
<p>貢献する SDGs ターゲット</p>	<p>5.5</p>	<p>政治、経済、公共分野でのあらゆるレベルの意思決定において、完全かつ効果的な女性の参画及び平等なリーダーシップの機会を確保する。</p>	
	<p>8.8</p>	<p>移住労働者、特に女性の移住労働者や不安定な雇用状態にある労働者など、全ての労働者の権利を保護し、安全・安心な労働環境を促進する。</p>	

<p>特定したインパクト</p>	<p>資源強度、廃棄物</p>
<p>取組内容(インパクト内容)</p>	<p>・過剰包装の廃止とプラスチック素材の削減</p>
<p>KPI</p>	<p>● 2028 年 8 月期までにパッケージでのプラスチック素材を 2023 年 8 月期に比して 90%削減する。</p>
<p>KPI 達成に向けた取り組み</p>	<p>➤ 2023 年 6 月より、過剰包装の廃止とプラスチック削減を目指し、エコ素材を中心とした新パッケージの運用を開始した。新パッケージの素材としてはベジタブルオイルインクを使用する等エコ素材を中心としたパッケージングへの切り替えを行った。オリジナルパッケージのアイテム数は約 5 割削減し、プラスチックの使用については一部にとどめ、順次使用する原材料の削減、リサイクル可能な素材への転換、プラスチックの廃止を推進している。包装資材としてプラスチック</p>

	<p>素材を利用していたパッケージや手提げ袋についてはアイテム数 26 個を 21 個に削減した。またブライダルジュエリー以外のパッケージからは外箱を省き、直接ジュエリーBOX ヘリボンをかける仕様に変更、顧客からの理解が得られれば、ショッピングバッグも BOX も省き、布の巾着に包んで渡す等、環境に配慮し、包装の簡略化を実施している。</p>		
<p>貢献する SDGs ターゲット</p>	<p>8.4</p>	<p>2030 年までに、世界の消費と生産における資源効率を漸進的に改善させ、先進国の主導の下、持続可能な消費を生産に関する 10 年計画枠組みに従い、経済成長と環境悪化の分断を図る。</p>	
	<p>12.2</p>	<p>2030 年までに天然資源の持続可能な管理及び効率的な利用を達成する。</p>	
	<p>12.4</p>	<p>2020 年までに、合意された国際的な枠組みに従い、製品ライフサイクルを通じ、環境上適正な化学物質や全ての廃棄物の管理を実現し、人の健康や環境への悪影響を最小化するため、化学物質や廃棄物の大気、水、土壌への放出を大幅に削減する。</p>	

以上